

令和5年度 第1回
寒河江市総合教育会議
会 議 録

令和5年11月8日 開会

令和5年11月8日(水) 令和5年度 第1回寒河江市総合教育会議

○ 会議出席者

| | | | |
|----------|-------|------|--|
| 寒河江市長 | 佐藤洋樹 | | |
| 寒河江市教育長 | 佐藤志津男 | | |
| 寒河江市教育委員 | 鈴木淳一 | 國井晴彦 | |
| | 鈴木多鶴子 | 大沼賀世 | |

○ 事務局職員の職氏名

| | | | |
|------------|------|------------|------|
| 学校教育課長 | 今野育男 | 指導推進室長 | 石山勝巳 |
| 生涯学習課長 | 渡邊健一 | スポーツ振興課長 | 渡辺智昭 |
| 総務課課長補佐 | 小関光彦 | 学校教育課長補佐 | 秋場昭吾 |
| 学校再編整備室長補佐 | 千葉大志 | 指導推進室長補佐 | 阿部高典 |
| 生涯学習課長補佐 | 今井英智 | スポーツ振興課長補佐 | 兼子亘 |

○ 日程

令和5年度 第1回総合教育会議日程
令和5年11月8日(水)

午前10時00分 開議
市役所第2・第3・第4議会会議室

1 開会

2 あいさつ

3 協議

4 その他

5 閉会

1 開 会 午前10時00分

2 あいさつ (佐藤洋樹市長)

皆さんこんにちは。まだまだ秋の風情であります。今週末あたりから少し寒さが入ってくるということでもあります。年末に近づいているわけでもありますので、これからいろいろな事業や政策などについても今年の進捗を検証していきながら、来年度に向けて検討していくという、そういう意味では大変重要な時期かと思っていますところでもあります。今日は第1回の総合教育会議ということで、テーマは寒河江市の学校施設整備計画改定についてであります。この学校施設整備計画については、これまでの総合教育会議でも毎年1回ほど議論してきたところでありまして、これから最終的に案をまとめていく時期でありますので、ぜひ改めて委員の皆様から忌憚のないご意見を頂戴できればと思います。それから、二つ目にさがえ未来コンソーシアムについてあります。これも、令和3年の第1回総合教育会議でも議論していただきましたが、今日はその後の状況も踏まえて議論を深めていただければと思っていますところでもありますので、よろしくお願いを申し上げて一言ご挨拶とさせていただきます。ご苦労様でございます。

3 協 議 (座長：佐藤洋樹市長)

(1) 寒河江市学校施設整備計画改定について

○佐藤洋樹市長：

はい、それでは議長を務めさせていただきます。お手元の次第に従って協議を進めていきたいと思っております。はじめに、(1)寒河江市学校施設整備計画改定についてを議題としたいと思います。最初に今野学校教育課長の方から説明をお願いしたいと思います。

○今野育男学校教育課長：

私の方から説明をさせていただきます。寒河江市学校施設整備計画につきましては、昨年度に地区説明会等を行い様々なご意見をいただいております。いただいたご意見の中で、「小学校の二段階統合は、子どもと保護者ともに負担が大きい」、「小中学校の統廃合による地域の力の衰退への懸念」、「中学校の規模の大きさへの不安」等が出されたところでもあります。これらのご意見を踏まえまして、教育委員会だけでなく外部有識者会議や庁内の会議で検討を行い、寒河江市学校施設整備計画改定案を作成したところでございます。

改定の大きなポイントは3点ありまして、一つ目が小学校の二段階統合は行わないこと、二つ目が西部地区に拠点となる小学校を1校整備すること、三つ目は中学校の統合時期を令和10年から令和12年に変更することです。これらを含みます学校施設整備計画の改定案について、外部有識者会議や地区説明会、また9月28日から10月27日までパブリックコメントを行い、ご意見を頂戴しております。

それらのご意見等踏まえまして、今回3か所の修正をしております。改定案の18ページになります。「築50年以上経過した」の前に、「既存の」を加筆いたします。これは、次のページにあ

りますけれども、目標使用年数80年の校舎と区別するため、新たに建築する校舎は80年間の使用を目的とすること、既存の校舎は50年で改築を検討すること、ということについて区別しやすくするためのものであります。2点目は、改定案19ページの部活動改革への対応です。これまで、部活動の改革を推進することのみ記載していたところですが、部活動改革の対応について、国や県等の動向を注視し、寒河江市部活動改革検討委員会での議論を踏まえ、部活動の改革が推進するように配慮した施設の整備を行います。ということで、内容を修正しております。3点目については、先程の「目標使用年数80年」の前に「今後建築される校舎等については」を加筆しております。

以上3か所の修正を行いまして、学校施設整備計画の現段階での最終案と考えているところです。この案につきまして、教育委員の方々からご意見をいただきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

○佐藤洋樹市長：

ありがとうございます。資料については、事前にお配りしているわけではありますが、パブリックコメントに関する内容についてもお配りしているということですね。教育委員の皆さんにも見ていただけたということでもありますので、早速ご意見を頂戴できればと思います。まず、鈴木淳一委員の方からお願いします。

○鈴木淳一委員：

それでは私の方から発言をさせていただきたいと思います。この学校施設整備計画についてですが、まず昨年度の3月に計画を策定して、1年をかけて佐藤教育長や今野課長、千葉室長補佐等がコロナ禍の中でしたけれども説明会を行ってきました。私も説明会の会場にて、様々な場所で意見をお聞きしに出向いた次第です。

市民の方の最初の頃の反応といえば、驚きが目立っていたと思います。「いつ決まったんだ」「知らなかった」といったご意見も多数でしたし、やはり突然学校施設整備計画が発表されたというイメージがありまして、1時間や2時間ではなかなか理解することができない方が多いのかなと最初思いました。それでも、佐藤教育長をはじめとする方々が一生懸命説明をして、丁寧に答弁をしていたことを思い出します。

あれから1年が経ち、市民の方もだいぶ寒河江市の現状と10年後のことを少しずつわかっていただけてきたのかなと感じております。ご意見もあり、今回見直された改定案が出され、先月ですが改正案の説明会も開催されました。私も会場に出向いて若い方のご意見をお聞きしたかったのですが、そこで暮らす方の前では、若い方はなかなか思い切った発言はしにくいのかなと感じた次第でした。それで、発言もなかなか出なかったのではないかなというところが、正直な感想です。

それでは、今回の寒河江市学校施設整備計画改定案について、お話をいたします。改定案の説明会后に、西部地区のとある方々から「統合には賛成するが、10年後まで待つのは厳しいのではないか」「その間に、資料にある人数よりも減るのではないか」という話をお聞きしました。改定案によれば、改定前は令和8年に統合して醍醐小学校を使用する予定でしたが、この発表では令和15年に新しく高松小学校敷地内に、新校舎を建築するとしました。

これまでもこの計画には、将来の児童数の推移が重要としてきました。特に、西部地区の推移は大きく、資料の児童数の推移を改めて見ても、令和9年10年あたりから新1年生が少数のようにみえます。白岩小学校でも、複式学級の学年になることが起こりかねません。統合は、急いだ方が良く私は思っておりました。また、校舎の問題もあります。中学校は、3校ともこれから築年数50年を超えます。小学校の中で一番古い校舎は西根小学校で、築45年です。次に築44年の寒河江中部小学校、次に築42年の高松小学校となっています。先週ですが、私たち教育委員は西根小学校を学校訪問しました。国のルールにより2クラスに分けることができない、2年生1クラス34人のクラスがありました。そのために、既存の教室の後ろにある、ランドセルを入れるロッカーを取り壊し、窓際にあるボイラーを外し、少しでも広く教室を使用されていました。しかし、黒板との距離も近く、これからICT授業が始まる電子黒板を導入すればさらに狭くなるような窮屈な教室を、なんと6年間使い続けることをお聞きしました。このような学年が、今後も出てくるとなれば、同じような教室をさらに準備しなければならなくなり、今後西根小学校の校舎の大改修も必要になるのではないかと感じました。

それでは、今回の改定案についてのポイントについて述べさせていただきます。一つ、二段階統合を見直すこと、二つ、西部地区学区に小学校を1校整備すること、三つ、中学校の統合を令和10年から令和12年に見直すこととなっております。そこで私は、何を優先するのかなと思いました。私はこの場合、二段階統合による児童生徒と保護者の負担を一番に考えました。負担とは、どのようなことが起こりうるのかはわかりませんが、人体に何かしらの負担をかけてまで統合をするべきではないのではと思いました。そこで、これらを優先すると小学校統合は遅れることになりすし、複式学級の解消も遅れることになりす。しかし、負担の軽減ということを考えますとこれが正解なのかなと思ひますし、発表された新しい計画案のロードマップ通りになるのかなと感じました。

次に、中学校のことですが、なぜ1校にするのかということ。これまで配布された資料の中に、生徒数の推移を令和17年頃まで知ることができます。今の状態であれば、中学校2校でも問題ないと思ひます。しかし、生徒の全体数を見ますと、7年後には950人となり、さらに12年後には800人になります。また、陵東中学校と陵西中学校を一つにし、陵南中学校はそのままで計2校とする場合についてですが、人数の差が目立つと思ひます。その差は、今後もっと大きくなるのではないかと不安もあります。前述の差の元となるものが、寒河江中部小学校の児童数だと思ひます。今後も、1学年100人超えの児童が入学すると予測されております。100人超えとなると、4クラスになるそうです。そうすると、寒河江中部小学校には教室が足りなくなるという話もお聞きしました。そのマンモス校である寒河江中部小学校の学区の見直しも検討されたとお聞きしましたが、私も保護者の方々に「学区の見直しはどうなのでしょう」とお聞きしたところ、「学区の見直しは難しいのではないかと」お聞きしました。寒河江中部小学校がなぜ人気なのか、私たちも研究しなければいけないと思ひます。高校進学についても、なぜ差があるのかも同様に、これからの新しい世代や若い方は大きなコミュニティを求めているのではないかと推測します。

次に、部活動についてです。これから部活動改革が始まり、地域移行という風が変わっていきます。受け皿の準備も進めなければなりません。また、生徒に人気のサッカー部があるなしでも影響は大きいと思ひます。ソフトボール部は、この度の新人戦で他の町の中学校との合同チーム

による参加となりました。多くの学校で、チームを組むことができなくなりました。また、誰か一人でも怪我をしたり体調不良になると、試合ができなくなることもあるそうです。現在の陵南中学校の生徒約500人でこのような状態だそうです。中学校2校ですと、資料によれば488人の学校と319人の学校となっています。このことを考えると、2校ではもっと大変なことになるのではないかと思います。国では、これから生涯スポーツを推進しています。今のところスポーツをしているのは、中学生だと思います。高校に入れば、運動をしている子は半分以上、大学生や社会人となるとほぼ運動をしていないのではないのでしょうか。成長に一番大事な時期でもありますし、スポーツの楽しみをわからないまま大人にならないように、私たちは改革していかなければならないと思います。

最後に、説明会である保護者の方からこのような言葉がありました。幼稚園の卒園式で、「今度は中学校で会おうね」と園児たちが会話をしていた。その子たちは、学区の違う別々の小学校へ行くことになるそうです。それでも中学校は一緒だと園児たちが理解をしていることに、保護者は驚いておりました。私はそれを聞いて、親子でも家庭でも、この学校問題について関心があることに驚きました。私からは以上でございます。

○佐藤洋樹市長：

ありがとうございました。いろいろと課題なり疑問点なりご意見を頂戴しましたが、後でまた佐藤教育長の方からまとめてお答えしていただくという感じでよろしいでしょうか。では、鈴木多鶴子委員、お願いします。

○鈴木多鶴子委員：

では、私の方から意見を述べさせていただきます。資料をいただきまして、寒河江市学校施設整備計画改定のパブリックコメントと説明会アンケート集計結果、それから外部有識者会議議事録等を全て読ませていただきました。そこには、中学校1校案を歓迎する声もありましたが、1校となる様々な不安の声が沢山ありました。私も以前から感じていたところです。それは、これまでの中学校の形態や中学校での経験にも影響されているかもしれないと思いました。私の中学時代は学年で2、3クラスでしたし、子どもの中学時代当時は学年5クラスくらいでした。その子どもの通った中学校の規模くらいが、活動するのにも勉強するのにも、仲間づくりをするのにも丁度良いと思っていましたし、私自身も小さな中学校でしたので、全校生1000人近くにもなる中学校はとても不安に思っております。できれば、2校にして欲しいというのが私の本心ではあります。

しかし、私の中学時代のようにクラスの少ない中学校ですと、専門教科の先生が足りなかったり、部活の数が少なかったりと不便な点もありました。当時の私たちの国語と社会は、専門外の先生だったということも、少々苦い記憶として残っております。中学校では、クラスが少なすぎるのも弊害があるのかなと思っておりますので、今の陵西中学校はどうかと不安は少しあります。自分が教育委員ということで、中学校1校案に対して賛成反対様々な意見が寄せられました。そこで感じたことは、規模の大きな中学校を経験した人は1000人近くの規模の中学校にもあまり抵抗がないように思われました。そんなこともあり、若い方々にいろいろ中学校1校に関して聞いてみました。すると、これまた1000人近くの規模の中学校に抵抗がない方々ばかり

りで、歓迎している人が多かったのには、私自身少し驚きを感じました。その若い方々が活発だったからなのかどうかはわかりませんが、もしかしたら若い方々の感覚として、規模の大きな中学校に対しては抵抗がないのかなと思いました。

これからの寒河江の教育環境がどこに向かっていくのか、公共施設も含めて寒河江の町がどのようなようになっていくのか、どうあればよりよい町になっていくのか、目指す子ども像はどのようなものか、時代も社会も大きく変わっていく中で、未来を見据えて考えるのは本当に難しいことだと思っています。ただ、これから新しい中学校を建設していくには、新しい時代の新たな学びを実現する学校施設としていく必要があるのだらうと思っています。資料の6ページにあるような、児童生徒の社会性や人間性を育む場であり、それにふさわしいゆとりと潤いのある快適な空間であること、子どもたちがゆっくり落ち着いて過ごすことができる居場所となるようなものも作ること、不登校児童生徒の支援を含めた多様な子どもに対応していくため、様々な場やスペースそれからカウンセリング機能を総合的に整備していくこと等の快適な学習環境、それから個別最適な学びと協同的な学びと一体的充実の多様な学習内容と学習形態に対応した学習環境を整備していくこと、そして学校を地域コミュニティの拠点として捉え、地域の人たちと連携協同していくこと、他の公共施設等との複合化協業化を促進して新たな価値を生み出す施設としていく地域拠点としての学校施設としていくこと、このような学校を目指すのであればまた少し視点が変わるのかなと思っています。

そして、今年7月に行われた「みんなで作るみんなの学校 わくわくする学びの場を目指して」の講演を聞いて、新しい学校の写真等も含めた話を聞いてこれからの学校のイメージと変容を感じることができました。社会の変化による学びの変容、未来の力をどう伸ばしていくのか、時間や場所、集団を超えた学び、子どもの多様性に対応したインクルーシブ教育、学校が地域を支え地域が学校を支えるコミュニティスクール、これらのことは今の子どもたちや若い人たちもどこかでこれを求め感じているところがあるのではないかと、私の子育て時代のときに子どもたちが感じていることを思い出しながら、考えているところです。

ただ、こういった未来の学校や理想の学校を機能させていくについては、より良い施設、そして活用していくマネジメントや先生方の教育力も必要になっていくのではないかなと思います。そうした素晴らしい新しい学校が十分に機能させていけるのであれば、1000人近くの規模の中学校1校としても、寒河江の中学生たちを素晴らしい大人に育てていけるのではないかなと今は思っているところです。

小学校に関しては、地域のコミュニティをより大事にしながら、地域ごとの文化も大事にしながら、地域の核となるような学校にしていくと欲しいと思います。そのためにも西部地区に1校小学校を残すというのは賛成です。また、小学校の二段階統合については、児童の人数が少なくなりなかなか保護者にとっては早く統合して欲しいという気持ちの方もいるようではありますが、その辺を考慮して二段階統合の負担を考えた上で、小規模校の良いところもありますので、二段階統合ではなく1回で統合するという方向に賛成いたします。以上で、私の意見を終わります。

○佐藤洋樹市長：

ありがとうございました。大沼委員の方からもお願いします。

○大沼賀世委員：

様々な資料を揃えていただき、全部目を通させていただきました。自分自身、読み直したい部分もあるかもしれませんが、感じたところを少し述べたいと思います。先程、鈴木淳一委員の話に出てきていた、幼稚園の卒園式のときに「中学校でまた会おうね」と話していた園児たちについてですが、まさに私の娘もそうでして、小学校が別々になった友達と「また中学校で会えるね」という約束をしておりました。ですので、幼稚園の中でも子どもたちの間でそういう話が出ているのだと感じました。

あと、鈴木多鶴子委員の話の中にもありましたけれども、大規模な中学校に通った方は比較的中学校1校案に賛成の方が多いという意見がありました。私自身は特に中学校に関してですけれども、今の中学校の規模の良いところもあるとは思いますが、やはり部活等のことを聞いたりして、先生たちの勤務状況等を聞きますとその大変さは伝わってくるので、今回の計画の中学校1校案の方を見ながら色々考えていました。私自身、第二次ベビーブーム真っ只中ということで、中学校は各学年7クラス約800人の規模でした。ですので、3年間毎年クラス替えはありましたけれども、同じクラスにならなかった人も沢山いて顔も知らない人もいます。しかし、中学校を卒業して高校に入り、実は同じ中学校だったという友達と会ったり、社会人になって中学校の絆というものを感じたことを覚えています。ですので、その当時は大規模な、1クラス45人といった規模に何の疑問もなく通っておりまして、楽しかった中学時代というのを記憶しております。私は、1000人規模の学校に対しても、子どもたちはその学校に適応できる力を持っていると思いますので、一つの学校でもやっていけるのではないかと感じています。

今回、パブリックコメントやアンケートの中で、反対の意見がまだ沢山出ておりまして、反対される方たちに関しては、色々な地域のことや様々な学校のことを調べてコメントをされているなと思ったのですが、そういったところのコメントを拾い上げながら、その不安を取り除けるような素晴らしい計画にしていけることが良いのではないかと思います。やはり、大規模校の中で馴染めないお子さんたちがいるということも多くの方が心配されていますし、問題が起きるのではないということもありますけれども、そういったものは先生たちの力を育てたりカウンセラーや支援員を多く配置して、また家庭と地域が協力して乗り越えていけるのではないかと考えております。これから、高校・大学・社会と子どもたちは大きな世界に羽ばたいていくことになると思いますので、大勢の友達の中で様々な考え方に触れたり一緒に学んだりする学校生活は、将来の選択肢も増えて絶対に役に立つのではないかと考えています。

小学校に関してですけれども、統合は遅れますが西部地区に1校整備されるというのは、拠点としてその地区に学校があることは、寒河江市にとって全ての面で良いことだと思っております。西部地区というのは、地域の文化が伝承されたり、観光拠点としても観光案内等を小学生がされたりと様々な活動をしておりますので、そういった活動が統合後も続けることができるよう願っております。

また、基本計画の中で資料6ページのところの話が出ておりましたけれども、ゆとりのある空間を作るというところですが、私は高校や大学といった学校のイメージが非常にありまして、中学校というのはやはり教室で囲われた空間のイメージがありますけれども、子どもたちが集って話をする場所があったり、個室ではなくてもそれと同様のスペースが色々なところに作られているような学校をイメージしておりました。また、コミュニティスクールの講演会等でもお聞きし

た中では、やはり地域の方と学校の中の様々な場所で、形を変えて授業に取り組んでいるというお話もお聞きしておりますので、そういう様々な情報を取り入れながら、良い空間を作っていければ良いのかなと思います。今回の有識者会議の中でも、エネルギー分野専門の三浦先生も入っておいりましたけれども、これからの学校ということで環境や地球温暖化等配慮した学校、そして山形県の自然豊かな立地を活かして、自然を保全するということにもつながりますので、地元の県産木材を使ったような学校を作っていただきたいと思っております。エコスクールという言葉も耳にしますので、施設そのものを環境教育の取り組みの一つにすることも、目玉の一つになるのではないかと思います。

あと、学校のあり方や基本方針の中に給食施設の話も載っておりましたけれども、これから10年後、自校給食なのか給食センター方式なのかどのような給食の形に変わっていくのかわかりませんが、とにかく安全安心で美味しい給食、子どもたちが給食を楽しみに学校に来ることができるような給食を提供できたら良いのかなと思います。先程県産木材を使ってといった話をしましたけれども、やはり給食の方では地域の農業を大切にす、支えるための地元地産地消の食材の活用を、より一層力を入れていただけたら良いのかなと思います。最近オーガニック給食という言葉も耳にしますので、様々な地域でそういった取り組みをされている学校もありますが、毎食ではなくともオーガニック給食等を取り入れていくのも良いのではないかと思います。

スポーツ施設に関してですけれども、地域の施設と共用できる施設の整備を進めると話がありましたけれども、最近部活動の動きもありますけれども、公共施設と共用できれば施設管理の費用等の削減にもなりますし、そういった施設はおそらく県内にはまだないと思いますので、先行事例となるのではないかと思います。最近敷地内にプールを持たない学校も増えておりますので、使用時間に限りがある等問題は出てくるのかもしれないですが、そういった学校は市民プールを活用するといった方向で検討できたら良いのかなと思います。また、公共施設と学校施設を併設することで地域の人と交流ができたり、コミュニティスクールの活動やキャリア教育の広がりにもつながると感じています。

今回のアンケート等でも気になっていることは、やはり用地のことと感じておりますが、交通に関するインフラの整備や生徒の登校の負担にならないような場所の選定も重要だと思っております。意見をいただいた中に、電車やスクールバス以外のバス、自転車、自転車道のこと等もありましたが、意見で取り入れることができる場所は自転車道等も良いのかなと思っておりますし、電車を使用できる場所というところが限られてしまうかもしれませんが、既存の公共交通機関を使える場所というのも一つなのかなと感じております。以上でございます。

○佐藤洋樹市長：

ありがとうございました。それでは、国井委員の方からお願いします。

○国井晴彦委員：

それでは、私の方から発表させていただきます。事務局からいただいた資料を私も全て目を通させていただきました。特に各地での説明会と外部有識者会議の内容を読ませていただきました。各地の説明会をみると、どうしても反対意見の方が目に入ってしまうといえますか、やはり地域のおかれた現状等を考えると、学校を一つにすると子どもたちも環境が変わってしまうでしょう

から、そういう中で子どもたちが対応できるのだろうか、保護者たちや学校に関わってきた地域の人たちはこれからどうなるのだろうかという不安は出てくると思います。

しかし、前回の総合教育会議でも申し上げたように、ここで説明会に参加していない方は全く意見を持っていないのだろうか。前回サイレントマジョリティーという言葉で表現しましたが、その黙っている方々はどういう考えを持っているのかなと思います。そういうところをですね、私も色々な地域や学校に行ったときにPTAの方と話したりはしました。黙っている方の中でも特に、私は陵南中部学区の出身の人間なのですが、先程鈴木淳一委員なり大沼委員の話にもありましたとおり、どうしても陵南中部学区の生徒数も増えていまして、住宅も増えてきて陵南中部地域が一つのブランド化してきております。その中で、私自身の感覚ですけれども、陵南中部地域に住んでいる人たちは満足感が高いように思われます。満足感が高いということは、こういう学校施設整備計画に対して、関心がないというわけではないのですが、私たちのところはどうなっても大丈夫だと中心地だという認識があるのかなと。やはり計画に対しては、陵南中部学区以外の地域で、特に陵西学区辺りはどんどん生徒数も減って住宅もなかなか増える状況ではないので、そういうところから多く心配の声や反対意見が出てきているように感じました。

そういう中で私は、2、3年前から学校再編の計画があって総合教育会議で話し合いの場を持ったときに、第1回目にどういう意見を持たせていただいたかという、中学校に関しては1校にするべきだ、そして小学校に関しては児童数が少なくなってもできるだけ小学校は残して地域の核として、そして地域の人たちと一緒に地域を支えていく一つの共同体として、小学校を残しておくという考えでした。そして、中学校に関してはそこに設備や先生方の力、予算も全て注ぎ込んで、他の地域にはない特色のある、そして未来を先取りしたような中学校を作って、将来的にはそこから寒河江を作り出すような人間を教育していくと。ゆくゆくは寒河江を出ていくかもしれませんが、必ず寒河江に戻ってきて次の世代の寒河江、次の町づくりに役立つような人間を作り上げる、そのような中学校にできないかなと思います。それと同時に、全天候型陸上競技場や人口芝のグラウンド等、他の地域では当たり前になっている設備でも、なかなか寒河江では用意できないという現状もありますので、やはり新しい中学校というのをきっかけにして、前述の設備を充実させてそこで幼児から高校生、社会人まで使用できるような一つの総合的な町づくりの拠点、人が集まるような拠点を作っていけないかなと思いました。その中に、未来の町づくりエコタウンといった形の、非常に先進的な町づくりも一緒にできたらおもしろいのではと申し上げてきました。

そういう中で、私たちも学校訪問等をしていくうちに、中学校1校案に対する気持ちは変わりませんが、小学校に関して地域に必ず残しておくということに、現場の先生方の苦労や設備をこの目で見まして、あと、あまりに児童数が偏りすぎてくると小学校も統合していかざるを得ないといった結論になってきました。私は、学校施設整備計画のとおりで良いのではないかと思います。ただし、どうしても各地域の意見もありますので、できるだけ意見を汲み上げていただいて、小学校に関しては計画に基づいて統合を実行していくのが良いのではないかと考えております。

あと、先程陵南中部学区の話が出ましたが、反対意見の中に中学校をどうしても2校にして欲しいという声もあったと思います。私は、1校案だと思っておりますが、2校ということ考えた場合、この案をみると陵南中学校1校に対して陵東中学校と陵西中学校をあわせて1校にする

ようですが、畑を潰して新しく住宅を作っている現状を踏まえると陵南中学校の人気は当分衰えないと思われます。ただ、単純な生徒数の計算だと2校は成り立たないと思います。どうしても2校にするということであれば、やはり陵南中部学区の見直しをするしかないと思います。ただし、先程もお話ししたサイレントマジョリティーの言葉にもあるように、おそらく陵南中部学区を見直すとなると、今まで黙っていた人たちが黙っていないということが考えられます。さらに、説明会で別な意見が出てきてしまうと思います。ただ、何度も申し上げますがどうしても2校ということであれば、陵南中部学区の見直ししかないのではという気はしております。意見がまとまらないですが、以上です。

○佐藤洋樹市長：

4名の教育委員の皆さんからご意見を伺いましたが、この学校施設整備計画について、これまで1年7ヶ月程検討して改定案として今回まとめていただきました。それについて教育委員の皆さんからも、歓迎するご意見もありましたし、地域の声や反対される方の意見等も踏まえてですね、色々と提案もいただいておりますので、その辺のところもあわせて佐藤教育長の方から見解を頂戴できればと思います。よろしく願いいたします。

○佐藤志津男教育長：

本当に色々な面からご意見をいただきまして、ありがとうございます。今、市長からもありましたように、昨年度からこの学校施設整備計画に関わってきたわけですがけれども、最初はともかく、決まったこの計画を説明するところから、昨年の5月から始まったわけですがけれども、これまでも何度かお話しましたように色々な意見がありました。先程、鈴木淳一委員からも話がありましたように、「いつ決まったんだ」とか「そんなの知らない」といったこととか、「地域から学校がなくなってしまうと地域が廃れてしまうので、統合は反対だ」など、色々ご意見がありました。そうした中で、今学校というものは、地域との関わり抜きには成り立たないということがあると思います。やはり、地域と共にある学校ということが、子どもたちにとっても地域の方にとっても必要であるということだと思っております。そういうことで、色々な意見をお伺いしながら計画を検討しまして、改定案としたところです。

学校のあり方について、絶対こうでなければならないということはないと思います。説明会で申し上げてきましたけれども、極小規模校の複式学級でも良い面もありますし、課題となる面もあります。同じように、小規模でも中規模でも大規模でも、良い面と課題となる面があるわけです。大事なことは、これからの社会を担っていく子どもたちにとって、どのような教育環境が良いのかということを考えることだと思っております。そしてそれは、それぞれの自治体の人口であったり地理的環境であったりを考慮しながら、考えていくべきことだと思っております。ですから、自治体の規模によっても、学校のあり方は違うのだと思っております。そうしたことを考えて、10年後20年後を見据えながら検討していくということが、教育行政の責任であると思っております。そうしたことを踏まえまして、寒河江市の現状と、今後の社会状況や人口動態等も総合的に考えて今回の改定案とさせていただいたわけです。

今、色々なご意見がありました。その中で、小学校の統合に関してということで、國井委員から去年の総合教育会議でもお話がありましたように、小学校は地域になるべく残して欲しいとい

うことは、地域の方たちも同じ気持ちを当然お持ちだと思います。そうしたことを踏まえながらも、あまりにも小規模校になって学年が数人という中で子どもたちが学ぶことが、本当に良いのかということ等も考えながら、やはりある程度の統合はしていかなければならないということだと思います。ただ、一気に学校を同じ年に二つ作るということは、なかなか難しい面もありますので、当初の計画よりも遅れてしまいます。それは、二段階統合を避けるということも踏まえてですけれども、そうなる例えば醍醐小学校の人数は学年数人になっていくという、先程、鈴木多鶴子委員の話にもありましたような状況になるわけです。そういった状況になった場合には、それに対する対応をきちんとしていくことが必要になります。複式学級の指導というのは、教員の側からするとなかなか難しいです。昔は、複式学級がたくさんあったので学ぶ場所もたくさんあって、教員の力量も上がっていったのですが、今はなかなかそういう学ぶ場も少なくなっています。ですので、そうしたことを教育委員会の方でも、例えば、あそこの学校ではこうしているから研修に行ってきたらどうだろうとか、また、研修会もしながら子どもたちにとってマイナスにならないように考えていきたいと思います。西部地区に新しい学校を整備して、そこで西部地区の一つの拠点として、子どもたちが学んでいってくれたら良いなと思います。

中学校では、色々な意見の中で人数の問題が一番話題に出されています。また、ハード面も大事だと思います。先程、ゆとりある空間それから配慮の必要な子どもたちへの配慮、そして地域の人との連携という話がありましたけれども、やはりそうしたことがしやすいハード面での校舎を考えていくべきだと思います。これまでの学校というのは、教室があって廊下があって、勉強は教室の中で黒板の方を向いてやるということでしたが、これからの学びは違うわけです。教室も学ぶ場であるけれども、廊下であったりそれこそ共有のスペースであったり、そうしたところも学ぶ場にできます。つまり、学校全体を学びの場にできるわけです。それは、昔ながらの、教師が一方向的に教える授業ではないわけです。子どもたちが自ら考えていく、教師はそれを支える立場で授業を進めるということで、グループに分かれたりグループ同士がくっついたり、そしてパワーポイント等を使って発表したりとか、そういったことがスムーズに行えるようなスペースを作っていきたいと思いますし、不登校やいじめというのもやはり子どもたちのストレスが原因になっている部分が多々あると思いますので、先程大沼委員からもありましたように、子どもたちが語り合えるようなゆとりのある空間といったことも考えていきたいと思いますし、コミュニティスクールの学校運営協議会の人たちと触れ合えるような、そして地域の人にも来やすいようなスペースも考えていければと思います。

また、スポーツ施設に関しても意見がありましたけれども、これについては市の公共施設の色々な計画がありますので、そうしたところとすり合わせをしながら、より良いものになるように考えていきたいと思います。

最後に、人数に関してですが、「規模が大きくなると教員の目が届かなくなる」「不登校や問題行動をする生徒が増えるのではないか」という意見がありましたけれども、そうした不安は当然のことだと思います。だからこそ、そうしたことに事前に対応できるような学校経営を行っていく必要があると思います。教職員の人数が多くなりますので、子どもたちの出すサインや変化を見逃さず、多くの目でそういった変化を見つけて早めに対応していくことが大切です。そして、チームとしてそうしたことに対応していくことが、子どもたちにとってプラスになっていくと思いますし、大規模校ならではのメリットを活かして、保護者の方々にとっても地域の方々にとつ

ても、当然子どもたちにとっても、より良い学校となるように考えていきたいと思ひます。以上です。

○佐藤洋樹市長：

ありがとうございます。ひととおり、皆さんからご意見を頂戴しましたが、この件については先程も申しましたけれども、総合教育会議でも何回か皆さんからご意見を頂戴しているわけでありまして、その都度意見を踏まえて検討を加えてきたというところがありますので、改めてこれからの案についてどうこうということはおそろくないかもしれませんが、私の方から何点か佐藤教育長にお伺いしたいことがありまして、國井委員からも鈴木淳一委員からもお話がありましたが、中学校2校案にしていく場合に学区の問題に遡らざるを得ないというわけですね。それは、そもそも学校のあり方検討委員会で、私の認識だと「学区は変更しない」という前提でその後検討を進めてきているということがありましたが、その辺りのですね、学区を改めて手を加えるということについてどうなのか今の見解をお聞きしたいのと、もう一つは中学校に関してですが、部活動が組めなくなるというお話がありましたが、部活の問題は地域移行ということがあるわけですね。学校自体で部活をしなくても良いと言ってしまうと語弊があるかもしれませんが、土日祝日がメインになると思ひますが、学校単位でなくても地域の中で活動を作ってやっていく形になるので、必ずしも学校が大きくなければスポーツ活動はできなくなる、ということにはならないのではないかと思ひますが、その辺りのことをどう整理をされていくのか、お聞きしたいと思ひます。

○佐藤志津男教育長：

最初に、学区の件ですけれども、佐藤市長からお話がありましたように、学校のあり方検討委員会で、基本的に学区の再編等はしないで、小規模校の学区をくっつけて統合するのはあるということ、基本的にはその方向で考えてきております。そして、色々検討する中で2校案ということをお考えたときには、先程ご意見にもありましたように単純に陵南中学校と陵東中学校・陵西中学校といった2校案では、やはり10年後20年後をお考えたときに成り立たないと思ひます。つまり、陵東学区と陵西学区は令和17年度には300人ちょっとという人数になりますし、その後も減少していくことが見込まれるので、規模がどんどん小さくなっていきます。

そうしたときに、学区再編のところ、陵南学区の一部を陵東学区・陵西学区の学区にするとか、または今回10月の説明会では、最初から陵東学区と、陵南学区の一部の学区を一つの学区とするとか、それから陵東学区と陵西学区と陵南学区の一部で一つの学区とするということで、最初から二つに学区を分けてはどうかという意見もありました。しかしながら、やはりそうした考えも一つの考えではあると思ひますが、現実的にそれをどのように対応していくかということや、仮にどのような学区の振り分けを行ったとしてもそのままの規模を維持できるかということ、また人数の差が出てくるということもあると思ひます。それだと、また学区再編ということも検討していくことになります。そうすると、子どもたちや保護者の不安や負担ということをお考えると現実的ではないですし、トータルの生徒数についても、減少していくということは見込まれているわけですので、より安定した中で子どもたちが学んでいく環境をお考えたときに、今回の1校案としたところ、でございます。

もう一つの部活動に関してですけれども、部活動の地域移行については、部活動というよりは、それぞれの活動が段階的に地域に移行されていくということだと思いますけれども、ただそれが全ての部活動が地域に移行されていくのは、まだまだ先かなと思います。ですので、令和8年度からは休日の活動が地域になるべく移行できるようにということで、国の方も進めているわけですが、その後も当面は、平日は学校で部活動を行うということになると思います。そして、土日祝日は子どもたちが自分で選んだクラブ等で活動していきます。子どもたちの中には、平日は部活動をやるけれども、土日祝日は好きなことをやるという子もいると思います。ですので、平日だけ部活動をやるという生徒も増えてくると思います。そうしたときに、学校の中で様々な選択肢が出てくると子どもたちにとってやりたい部活動ができるということになると思います。それが、先程鈴木淳一委員がおっしゃったような生涯スポーツということにもつながりますし、例えば文化的な活動が好きな子は、平日はその活動を学校で行うことができ、土日祝日は自分の好きなことができるということになります。そういったことを考えたときに、当面の間は平日の部活動は学校でも行われますので、中学校を1校としたときの色々な選択肢は増えるのかなと思います。

○佐藤洋樹市長：

ありがとうございました。限られた時間ではありましたが、皆さんからひととおり学校施設整備計画改定案についてご意見を頂戴いたしました。教育委員の皆さんのお話を踏まえると、改定案についてこのとおり進めていくということで良いのかなと思いました。

パブリックコメントや地域説明会等でも、色々なご意見を頂戴いただきましたが、やはり寒河江の子どもたちが将来にわたって良い環境の中で勉強していく、そのためにどうやって施設を作っていくかということで、議論をさせていただいて学校施設整備計画をまとめていただいたのかなと思っておりますので、これからも実際の計画自体の実行というのはまだ先のことで時間がかかりますけれども、3、4年後中学校の統合について動き出すということになるわけで、その中でも引き続き色々検討していかなければならない課題も出てくると思いますので、そういったところも踏まえて、これからもさらに議論や検討を続けていければと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。

それでは、続いて（2）さがえ未来コンソーシアムについて、協議を進めてよろしいでしょうか。お願いいたします。

（2）さがえ未来コンソーシアムについて

○石山勝巳指導推進室長：

学校教育課の石山といいます。さがえ未来コンソーシアムにつきまして、まず配布資料をもとに説明いたします。1枚のものと、カラー刷りでホチキス留めのものがございますが、カラー刷りの方をご覧ください。右下に数字がふってありますけれども、これはページ番号と思って見ていただければと思います。

はじめに、6ページのところにこの事業を紹介するパンフレットを作ったのですが、さがえ未来コンソーシアムというのは、キャリア教育の視点で体験や座学も含めて色々な学びの活動を組

んでいくことで、次代の担い手であるさがえっ子を育むことを目的としたものです。そこで考えたのが、4ページにあります学校内外の色々な関係各位からの協力・協働のもとにコンソーシアム事業を進めていこうとしているもので、令和4年度から始めまして現在2年目となりますがその状況をお話したいと思います。とても広いつながりを作っていくことも可能だと考えての中で、今できていることについて重点的にお話します。

8ページをご覧ください。青い部分にキャリア教育とありますが、これは学校に企業の方をお呼びしたり、あるいは児童生徒が現地に出向いて体験したりしてキャリア教育を進めているものです。それから、創造性開発というところで、寒河江少年少女発明クラブを実施しているところです。緑の部分のふるさと学習については、どんな職業の方であっても、学区民の方や一般市民の方から得意な分野の力を借りて、そういった方に来てもらったりあるいは出向いたりして、ふるさと学習を進めているものです。このキャリア教育のサポートと発明クラブの立ち上げというのが、この2年間で充実してきているところになります。ふるさと学習は、コンソーシアムを始める前から学校と学区のノウハウが蓄積されているものがあつたので、それを拡充しているところです。

9ページの表ですけれども、今整備を進めているところについてまだ途中なのですが、オレンジ色の部分です。こちらの企業データベースに協力いただいている企業数がかなり増えてきているので、子どもたちにとって検索しやすい、調べやすいデータベースを作れるように今展開していることと、それからどんな方が子どもたちと関わっていけるか、こんな人に頼める、こんな分野は得意だといった個人データベースの方も、できれば今後、手をつけていきたいと思っています。10ページでいいますと、総合的な学習の時間のテーマを調べたものになります。実際に、右の棒グラフでは寒河江の農業と生產品の出荷額の差を出しているところですが、左の方が実は学校のニーズでして、小学校でいいますと農業と歴史文化のところでは総合的な学習の時間のテーマを設定しているのが圧倒的になっています。もちろん農業体験、米作りであるとか畑とか大変充実していて、今後も必要なものでありますので継続していきたいと思いますが、どちらかというと工業分野、製造品を作る分野等で、小学校での学習がこれから開拓の余地があるかなと思えるところです。

11ページの下段になりますけれども、もう一つ今わかってきていることですが、帯グラフの右側の方の、実際に寒河江市にある事業所数を見ると、黄色いところ、これは教育医療福祉の事業所が8パーセントであることに対して、職場体験がしたいと自分で希望してくる生徒については41パーセントです。左の建設業や製造業、こちらは寒河江ではとても充実している業種なのですが、こちらの方での生徒の希望者数が少なめとなっているということについて、中学校だけの学びではなく、小学校から中学校にかけて連続した体験や学びの経験等が今後必要かなと思っています。

13ページが、令和4年度に実施したキャリア教育の学校ごとの種類を載せたものになります。次の14ページに写真が少しあります。これは、企業の方に学校に来てもらったときの写真になりますが、職業講話、こちらはベトナムと繋いでオンライン学習をしています。それからモックカー教室、出前授業コードモシゴト、中学校の職業講話で若手の社員さんが直接自分の体験等を話してくれているような場面になります。それから15ページについては、昨年度の発明クラブにつきまして、10月から設立したのですが年8回実施で40名のクラブ員をかかえ、全て希望

者の児童生徒で実施いたしました。16ページを見ますと、そのとき実施したものづくり体験、基本的な道具工具を使って手を動かして行うものづくりを行うことで、今世の中で使われているもの等を、もっとこうすると良いものができるのではないかという思考につなげている経験を行っています。17ページについては、データベースの構想でして、各発達段階に合わせて企業ライブラリーのデータベースを活用できるように整備していきたいと考えているものになります。

今年度のことについて話したいと思います。24ページをご覧ください。うすだいだい色の部分について、昨年度の学校での企業の受け入れあるいは子どもたちが企業に出向いての体験活動等が、今年度令和5年度については、中学校のところでだいぶ拡充しております。小学校のところに空欄が多いので、この辺りを今後の課題として見ているところです。それから、下の段の25ページについては、職場体験学習を受け入れてくれる企業の受け入れ可能人数になります。可能人数の合計は580名となっております、ここまで広がりました。実際には、三つの中学校の二年生一学年が出向くわけですが、合わせておよそ350名ですので、それを大幅に超えている受け入れ可能人数となります。それだけ企業の受け入れの理解が進んでいると言えます。その実際に行く人数の差が26ページになるわけですが、上の段のグレーのところに「受け入れることはできるが実際に行かなかった」という会社が載っています。点線の枠のところも「受け入れることができるがこれしか人数が行かなかった」というところになります。こちらは実は、建設業や製造業関係になっておりまして、これだけ社会に貢献している企業さんが沢山あるのですが、実際に子どもたちが希望して行かなかったというところに今年の課題が見えてきたところです。下の段の27ページは、先程お話したことと同じになります。

右側28ページの、陵東中学校でのキックオフ、こちらは実際に生徒の前でお話して下さっている方々が、「私たちの事業所ではこんな課題があるのよ。何か良いアイデアないかい」と投げかけを行っているシーンです。子どもたちはその話を受けて、自分たちが考えて「こんなアイデアはどうですか」というような提案をしようとする探究学習のはじめの写真になります。隣は、実際に企業体験や職場体験学習を行っているところで、これは全ての中学校の2年生が実施しています。

下の段は、今年の発明クラブについてですが、年16回でドローンを飛ばしたりもしています。なんと51名にもクラブ員の希望者が増えまして、それを受けましょうと運営委員で話し合いまして、保護者の方の協力や指導員のサポート等も得ながら、指導員を22名に増やして、なんとか運営しているところです。この前の土曜日は寒河江工業高校に行ってきました。寒河江工業高校の生徒たちが、子どもたちに直接教えてくれるというとても良い機会になりました。20人ずつ、二部屋に分かれて別々のことをしたのですが、一部屋には子ども20人に対して高校生20人になるくらい来てくれて、大変良い時間になったと思います。

それから、31ページのところは、発明クラブに協賛してくれているスポンサーの方々です。こちらの方々のスポンサーをもとに、物を作るときに材料を買ったり、必要な工具を揃えたりさせてもらっています。これがないとなかなか運営が難しいところです。

それから32ページのところは、今年の工夫展で入賞した2人の作品でして、中学1年生が考えた作品が左の手押し車ですが、雪道でタイヤが雪に絡んで動かなくなったときは、そのようにタイヤを下に固定して滑らせて使えるのではないかと発明したものです。これが、議長賞を受賞しました。小学生が考えた右側の作品は、冷蔵庫に見立てた箱があるのですが、扉が開けっ放

しになると教えてくれるという見張り番を考えたものです。

最後に、35ページ以降はコンソーシアム事業とつながった学校からの評価について載せておりますので、後程ご覧になってください。39ページの成果と課題について、1点ずつ申し上げると、成果としてはこんなに地元の企業の方々が学校に支援してくれるのかということです。その意識を掴んだといいますか、企業の皆さんも子どもたちに自分たちの会社のことを知って欲しいとすごく思っているのだなと感じたことが成果でした。これは、学校の教育とのよい関係を築く基盤になるものだと思います。課題については、下の方にある発明クラブだけではないのですが、人材の確保です。指導員もそうですけれども、例えば学校からのニーズ、こんな人に来て欲しいというニーズがあったときに、事務局で一生懸命ニーズを擦り合わせ人材の確保をするというコーディネート業務をやっておりますので、そういったことが課題になってくると思います。今後のコンソーシアムの方向性について、ご意見をいただけたらありがたいなと思います。よろしくをお願いします。

○佐藤洋樹市長：

ありがとうございました。それでは、皆さんの方からもご意見を頂戴できればと思いますが、鈴木淳一委員の方からお願いします。

○鈴木淳一委員：

お疲れ様です。今回、事務局の鈴木郁さんがいらして説明して下さると思っていたので、この間、鈴木さんから説明いただいた部分の感想にもなってしまうのですが、少しお話をさせていただきたいと思います。

以前、鈴木さんの方からロータリークラブに来ていただいて、講話をいただいたことがありました。それで一番初めに「寒河江といえば何ですかと色々な人に聞くと、必ずさくらんぼだと答えるのが一般的だ」ということをお聞きしました。「しかし、さくらんぼだけでは市は生きていけない。寒河江にはもっと良いものがあるということ、世の中の人には知らなければいけない。あなた、寒河江には一体何社の企業があると思いますか」とお話をされていて、私は委員の仕事をしておりますので少しわかるのですが、一般の人に聞くと市内に1000以上の企業があるということは全然わからないということ、改めて知ることができました。そして、その企業の中で何を作っているのかということ、どうやって世の中に広めていくのかということを考えさせられたのを、思い出します。当然、私たち大人もわからないということですから、子どもたちにとってもどうやって伝えていくのだろうということがテーマなんだろうなということで、このコンソーシアムの中に企業のデータベース等の構築が必要だったのかなと改めて思いました。

そして、それをどうやって広めていくのだろうと考えたときに、この間陵南中学校にお邪魔したときに掲示板の役割を持つ大きなデジタルスクリーンがあって、こういうものはやはり目を引くのだなと思いました。その画面の中にコンソーシアムの目的といった宣伝を常に流し、たまに企業の告知等も流すことで、子どもたちも目がいくのではないかなとふと思った次第でした。

また、このさがえ未来コンソーシアムという名前も呼びにくいのではないかということで、短い言葉で例えば「みらコン」とかにならないのかなと。そういったいわゆる愛称で、「これは何ですか」ということで、広がりが出てくるのが大事ではないかと思います。一番の目的はキャリ

ア教育ということですが、鈴木さんが色々手配等したと思うのですが、参加企業が多くなったということで、とても素晴らしいことだなと思います。ただ、中学校の職場体験ということで、企業を決めることが希望制なのかはわからないのですが、今現実的な思考の保護者や子どもが多い結果、こういった黄色の部分、教育医療福祉の事業所に行く子どもが多く、工業系の事業所が薄れているのではないかと感じます。

そこで、職場体験といえば東京にあるキッザニア等で小さい子が多種の職業を体験しているとお聞きしました。やはり、小さい子は色々やってみたいということでニーズがあるようで気軽に体験できるのですが、このさがえ未来コンソーシアムの中学生のプログラムは仮就職しているのではないかなと捉える方が多いのではないかなと思います。やはり企業側のバランスとのマッチングもあると思うのですが、建設業への対策としては、真夏は厳しいと思いますので、11月くらいに企業見学ということで会社訪問のような形で重機体験会のようなことをすれば、少し課題が解決するのではないかと思います。一つの選択肢に囚われない、多くの選択肢の中で過ごして欲しいなと思います。

今後さがえ未来コンソーシアムをどうしていくかということなのですが、やはりスタッフの充実というのも大事だと思うのですが、スタッフがボランティアだということもお聞きしました。これ以上に事業を拡充していくのであれば、ボランティアでは限度がありますので、組織のサポートを強化していく必要があるかなと。私は、事務局の中の鈴木郁さんしかわからないのですが、他に多数事務局員の方がいるのでしょうか。そういった人材もどういう風にしていくのかなというところがわからなかったのが、より良い事務局にしていっていただければと思います。まとまりませんが、よろしく願いいたします。

○佐藤洋樹市長：

それでは、後で事務局の体制等についてお答えいただきたいと思います。鈴木多鶴子委員、お願いいたします。

○鈴木多鶴子委員：

先日の教育委員会で、事務局の鈴木郁さんの方から詳しい説明をいただき、今日も資料の方で担当の方から説明をいただきました。それで、これまで教育委員をしてもなかなか詳しい内情がわからなかったのですが、こういう説明を受けて改めてこの2年間で大変多くの素晴らしい活動をしてきてくださったのだなと思ったところです。

まず一つは、キャリア教育のサポートということで、中学校の訪問に行ったときも、「こういった方々からこういう話を聞いたんだ」という話や、それから「企業の特に若い方に来てもらって中学生とあまり歳が離れてない方から話を聞いて、とても良かった」とか「そこで課題を出していただいてその課題をどう解決するか、実際の仕事場で活用できるようなものを提案してもらった」というようなことも学校側からも聞きましたし、話した当事者の方からも聞いておりました。そういったキャリア教育のサポートというのも、素晴らしいなと思って聞きました。

また、発明クラブについても、これまでも時々聞いていたのですが、ここまでの発明クラブの活動と、今年は51人でしたか、すごい人数の参加者ということで、子どもたちの興味関心と企業の方の協力、そして先月の寒河江工業高校の生徒さんから直に子どもたちが教えてもら

って、一緒に活動したということは、本当に子どもたちにとって教える側との縦のつながりもそうですし、一緒に学ぶ子どもたちも素晴らしい心の糧、地域の糧になったのではないかと思います。

本当に発明クラブの活動は素晴らしいと思いますけれども、その中でも企業の方々からの大変な協力、物であったり資金であったり人であったりを提供していただいていることが素晴らしいなと思います。

さがえ未来コンソーシアムの規約を見ますと、目的として「学校・地域・企業等の連携および協働により、寒河江市の未来を担う子どもたちの健全育成に資する事業を効果的に実施することで、子どもたちの主体的協働的かつ探究的な学びの深化および郷土愛の醸成を図るとともに、連携する学校・地域・企業等の相互発展に寄与することを目的とする」ということで、子どもたちの成長にとって学校だけではない、地域だけではない、企業も人的資金的物的なものを提供しながら、一緒に子どもたちを育てていく、さらには企業にもそれが回っていくというような考え方は、また新たな視点で素晴らしいなと思っています。寒河江の企業の中には、世界的にも誇るような企業がいくつかあると聞いています。その人たちに触れること、ノウハウを耳にすること、テレビで観ている企業の方と実際に会って体験したり一緒に活動することは、この寒河江の子どもたちにとっても素晴らしいことだなと思います。そういった機会をどんどん広げていって欲しいなと思います。

また、寒河江の企業ライブラリーデータベースをこれ程充実してくださったというのは、学校現場の先生にとっても、それから子どもたちにとっても、また、コミュニティスクールになっておりますのでコーディネーターさんにとっても、活用するのに大変ありがたいのかなと思って聞いておりました。

今後のことについてですけれども、資金繰りとか運営体制が、なかなかまだそこまで軌道に乗っていないのかなということと、あと今事務局の鈴木郁さんが中心となってこの事業をやってくれているのですが、今後はどのような形で継続していくのか、その辺も考えてNPO組織にするとか会社組織にするとか財団にするとか、そういった方向も考えていくのも必要になってくるのかなと思っています。そのときに、ヒントになるのかどうかはわかりませんが、先日主任児童委員の方の研修で、鶴岡市にありますキッズドームソライの方に行って見学してまいりました。そのときいただいてきたパンフレットなのですが、ソライの方は会社で運営しておりますので、子どもたちの遊び場とか色々な活動を会社組織でやっているということなのですが、このソライの運営会社のビジョンは「地方の希望であれ」、ソライのお題は「子どもたちの個性天性に寄り添い、夢中体験を通して自分を育む」「学びの選択肢を地域に提供する」、合言葉は「夢中に生きる大人になろう」というようなことで、あとはキッズドームソライの方はコンセプトとして「夢中体験を通して自分を育む」。こういうことを聞いただけで、大人の私もわくわくしますし、きっと子どもたちもこういったテーマやビジョンに触れたときにわくわくするのかなと。このさがえ未来コンソーシアムも、ソライのような子どもたちも大人も企業もわくわくするようなビジョンを立ち上げて、寒河江の未来像や展望と一緒に思い描くようなものに作り上げていけば、もう少し市民にも伝わるし、わくわくしていくのかなと思ったところでした。

あとは、今後中学校が1校になってくると、地域のサポートが必要になってくると思います。学校だけではない地域のサポート、地域だけでない企業のサポート、企業も子どもたちに支援し

ていこうという方向になって、寒河江全体が子どもを支援していくような、そんなさがえ未来コンソーシアムというのにも良いのかなと思います。企業さんのノウハウは、本当に沢山あると思います。色々な目で子どもたちを見て育ててということで、企業が社会や子どもたちに貢献していく時代にもなっていくのではないかと思います。

それから、先程の資料の4ページでしょうか、連携の団体の方を見ますと、企業だけではなくソロプチミストさんとか農家や慈恩寺さんとか、あとは文化芸術の方の団体もありますけれども、そういったものにも子どもたちが参加するような機会も取り入れていったら良いのかなと思いました。ソロプチミストさんのお茶会に希望する人は参加するとか、慈恩寺のことについては地元の醍醐小学校で勉強したり案内をしておりますけれども、もっともっと関わりたいという子どもがいれば、もう少し慈恩寺と連携をしていくとか、興味あるものに対して子どもたちがつながって活動できるようなものも準備していけたら良いのかなと思いました。演劇等も、子どもたちに教えたいというような人もいますので、演劇を通して人間教育や感性教育といいますか、色々な場を広げて未来コンソーシアムのビジョンに合うようなものであれば、色々なものを提供して子どもたちの興味関心を広げ、地元に着するものにしていけたら良いなと思っていますところでは。

あともう一つ、コミュニティスクールがそれぞれの学校でありますので、そのコミュニティスクールの地域コーディネーターさんとか学校運営協議会さんとの連携等も、もう少しわかりやすくしておいていただけると、お互いに活動しやすくなるのかなと思いました。以上です。

○佐藤洋樹市長：

ありがとうございました。大沼委員、お願いします。

○大沼賀世委員：

昨年のさがえ未来コンソーシアムの立ち上げから、本当に多岐にわたる効果を上げているということが実感です。鈴木さんのご尽力の賜物だと思っています。ただ、このさがえ未来コンソーシアムというのが、企業さんたちの方は協賛されていて認識はされているのかもしれませんが、一般的にどの程度まで認知されているのかというのが少し気になります。

私は、寒河江小学校で地域コーディネーターをしておりますけれども、寒河江小学校だけではなく寒河江市内の全ての小中学校がコミュニティスクールになり、そのコーディネーターの研修会という場がございます。その場で、鈴木さんも一緒に色々活動してくださっているということが、色々な地域のコーディネーターの方とお話する中でも、「寒河江はすごいね」といつも言われます。コーディネーターさんは、地域であまり研修会をしているところが少ないので、そういった連携をして市内の他のコーディネーターさんと情報を共有したり学び合ったりしているところを、羨ましいと言われました。そういったところで、コミュニティスクールとコンソーシアムとのつながりというのが非常に強くなってきていると感じています。先日も、寒河江小学校の5年生が学年行事で、コドモシゴトを体験させていただきました。今回は18社、ブースで出展していただきまして、様々な体験をさせていただいたのですが、先程鈴木淳一委員からも話が出たキッズニアのようなイメージがありました。例えば、網戸張りをしたりコンビニさんもいたのでお菓子をお店のよう並べて品出しのお手伝いをさせていただいたり、また、写真も載っておりますけれども、美容院では美容師の仕事の体験をしたり、子どもたちがびっくりしていたのは

釘を使わないで木を組み合わせていく昔ながらの方法ですけれども、そういった木組みの体験をさせていただいたブースもありました。毎年5年生にそういった職業体験をさせていただいておりますけれども、中学校に上がる前にこういった体験をすることで、中学校に上がったからのキャリア教育にもつながっていくのかなと思います。今、その子どもたちが、体験したことについてパワーポイントを使ってまとめております。その様子を見ると、「職業のことを初めて知った」とか「こういったことも将来やってみたい」とか書いている子もおりましたので、非常に意義ある体験をさせていただいていると思っております。

中学校の方は、キャリア教育ということで様々な方たちからお話を聞いて、そのお話も聞くだけでなく課題を共に考え参加しているような探究型の学習ということで、これから将来のためにも役立つ学習になっているのかなと感じます。非常に沢山の企業に協賛いただいているということで、企業ライブラリーというのもこれからもっと広く活用されて、子どもの活動だけでなく様々な意味で活用されていくと、より有意義なものになるのではないかと感じています。

発明クラブに関してですけれども、こちらの方も、今回充実したプログラムを見て、大人も参加してみたいようなものが非常にありますので、私の子どもたちの友人も沢山参加しておりますけれども、「この日は必ずこれに行かなければならない」と非常にわくわくしながら参加している様子も聞いております。発明クラブも含めて、コンソーシアムが今後どのようにしていくのが、気になっているところです。鈴木さんの方も、任期があるということですが、その後どのような形になるか、せっかく培ったこのシステムをぜひ進化させながら、使っていただきたいなど思っております。以上です。

○佐藤洋樹市長：

ありがとうございました。それでは國井委員からもお願いしたいと思います。

○國井晴彦委員：

それでは、さがえ未来コンソーシアムについて発表させていただきます。私も会社の経営者なのですが、子どもたちが義務教育から高校、大学と高等教育を受けていく過程で学んだ授業の内容というのが、将来社会に出た際に本当に役立っているのか大変興味がありました。

正直に申しまして、私の会社では高学歴の人や勉強ができる方が入社するような会社ではありませんが、例えば、九九ができなくても今は電卓があれば仕事はできます。漢字がわからなくてもインターネットやスマホで調べれば何とか社会で生きていけます。字が下手ならば、パソコンを上手く使って変換して上手な字を印刷することもできます。最近では、AIを通じて日本語を英語に変換したり英語を日本語に変換したり、さらには会話までできるような時代にまでなってきました。外国語もそういうものを使えば、意外とできるような世の中になってきています。特にここ10年は世の中の変化が激しく、会社経営の環境も激変している時代になってきたと思います。ある本によれば、この20年くらいで50パーセントくらいの職業がなくなるのではないかとされておりまして。銀行や弁護士とか、私がやっている商売もどうなるかわかりません。

そのような中で、先程お話があったさがえ未来コンソーシアムの構想で、東京からいらした鈴木さんが先頭に立って、この1年半くらいさがえ未来コンソーシアムの形を作ってきたわけではございますが、例えばそのキャリア教育の中で、子どもたちに職業の話をしてくれということで

私が何回か話をしたことはあります。以前は何も抵抗がなかったのですが、やはりこの2、3年話してみて、20年後我々の業種はあるのだろうかとか、こんなことを子どもたちに話して役立つのだろうか。それは、私だけではなくおそらく半分以上の経営者なり話している方が、今は良くて子どもたちが大人になったときに本当に子どもたちの役に立つ話ができただのか、「意味のないことを聞いたね」という話が出てくるのではないかということ、非常に心配していました。それと同時に、私も学校訪問等で学校に行ったときに、先生方も働き方改革という中で、非常に多忙な中、子どもたちにキャリア教育をしなければならない、色々なことを教えなければならないということになってくると、どうしても前年踏襲、例えば前の年に来てくれた地元の農家の人にまた来てもらった方が良いのではないかと、地元の商店街のあの人に話してもらった方が良いのではないかとといったようになると、非常にありがたいですし勉強にもなると思うのですが、本当に将来プラスなのかを真摯に向き合って、子どもたちに最新の、10年後20年後、子どもたちが大人になったときに非常に役立つキャリア教育をやっていくべきではないかなと思いました。

そんな中、鈴木さんが、我々の想像以上に色々とまとめ上げてくれまして、かなりの企業が資金的にも協力してますし、ホームページをつないだりですね、子どもたちとのつながりを非常にわかりやすく作ってってくれたと思います。今までのキャリア教育ですと、ロータリークラブさんですとかライオンズクラブさんですとかJ C商工会青年部、あとは各学校のPTAがバラバラに対応しておりました。一生懸命やっていただいて非常に勉強にはなるのですが、やはりそれをもう少し体系化して事務局主導で、子どもたちが聞きたい職業体験や職業講話というのも、キャリア教育の中で交えて、意見を汲み上げてやっていけたら良いのかなと思っていたところでした。その中で、さがえ未来コンソーシアムは、そういったニーズとぴったりに合致しているものだと思います。

特に、キャリア教育や職業講話となると、どうしても年配の社長クラスのお話になってしまうのですが、この環境が激変する時代の中、20年後もそうなのかなといった内容のお話を中心になってしまうので、やはり工業団地にある企業の若手、今第一線で活躍する方ですね、この間見させてもらったのは、地元の自動車部品関係を作っている会社と世界にある支店や工場等をつないで、インターネットで子どもたちに勉強させるというものでした。これはなかなか今まで思いつかないことだなと。鈴木さんは元々JDパワーージャパンとあって企業系のコンサルティング会社の社長も務めた方ですので、寒河江の企業だけでなく将来的には山形県や県外、東京、世界の企業とも結んで、子どもたちに今の世界の流れの勉強をさせるといったことに今後は期待したいなと思っております。

それと、コンソーシアム事業の関連の中で発明クラブも立ち上げましたが、やはり我々の世代ですと野球やサッカー、水泳といったスポーツ系の習い事が中心でした。文化系ですと習字やそろばんに始まりまして英会話、あとは学習塾といった実際の学習能力や運動能力の向上を目指したものだのですが、これからは何もないところから何かを作り上げなければならない、そうやって経済を回していかなければならない時代だと思います。そういう中で、世の中のないものを考え創造していく、そのため発明クラブというのは、創作意欲のある子どもたちの入り口を作ってあげて、そこに企業が応援していく、そして将来的にはぜひ寒河江からノーベル賞を受賞するような人間も出ていただきたいなと思います。

最後に、コンソーシアム構想の落としどころといいますか、これも誰もいないところからスタ

ートしましたので、一体どこにどうなればこれが終着点なんだと。どういうところまでいったら完成形なのか、というのがちょっとよくわかりませんし、そのためにやはり鈴木さんにはあと1年半くらい頑張ってもらって予定でしょうけれども、その後、もし世界の企業等とつないだとしても、さらにこういうところを発展して寒河江の子どもたちを育て上げたいという方向性を、もう少しはっきりさせておいた方が良いのではないかと思います。以上です。

○佐藤洋樹市長：

ありがとうございます。4名の教育委員の皆さんからご意見を伺いましたが、皆さん共通しているのは、この1年8ヶ月の大変な行動力は評価していただきますけれども、今後の取り組みの方向性あるいは体制等について、持続可能な体制をどう作っていくのかという展望といったものを皆さん心配されております。そこはこれから検討していったら良いのではないかとのご意見がそれぞれございましたので、その辺も含めて佐藤教育長の方からご所見を伺いたいと思います。

○佐藤志津男教育長：

ご意見ありがとうございます。3年と少しのコロナ禍の期間を経て、私がすごく感じるのは子どもたちにとって体験ということがすごく大事なんだなということです。それは、学校内の色々な、それこそ運動会とか文化発表会とかを含めて、また校外での職場体験であったりボランティア活動であったり、そうしたことが本当に大事なんだなと思いました。

また、先程鈴木淳一委員からも、市内の企業さんから言わせると、寒河江の人は地元の企業を知らないということがありました。実際私も中学校にいたときに、子どもたちと一緒に地域学習で市内の色々な企業を回らせていただいて色々とお話を聞いて、こういうこともしているんだと本当に発見の連続でした。私は社会科の担当なのですが、こんなことも知らなかったんだ恥ずかしいなと、自分で思ったくらいです。

そういう意味で、このさがえ未来コンソーシアムは、子どもたちや学校にとっても、地域の方、農林水産業も製造業もサービス業も含めて、そういった企業の方にとっても、メリットがあるものだと思います。先程言ったように、地域企業の連携によって相互発展を目指すということで、皆にとって良いというようなものを目指していくということで、子どもたちも色々な体験をしながら、これまでの職業講話とは違った体験もできてすごく良いなと思いますし、ただ聞くだけではなくて、企業さんの方から「こういう課題があるのだけれども、君たちも考えてくれないか」というように、子どもたちも一緒に考えるようなことも良いことですし、そういったことをどんどん広げていきたいなと思います。また、学校側からすると、教職員の働き方改革につながっている部分もあると思いますし、企業さんにとっても企業のPRにも役立っていると思います。そうしたところで、今はお互いに良い方向に行っているのだと思います。

ただ、今お話ありましたように、今後どうしていくかが本当に難しい問題でして、正直なところどうしていくべきかと考えているところです。まず、この1年半というのは、この体制をどうしていくかということで、本当に鈴木地域おこし推進員には頑張ってもらってありがたいなと思ってます。私もできるだけ発明クラブに出席して子どもたちを手伝ったりしているのですが、これからどうしていくか、それから資金面の確保ということも含めて考えていかなければな

らない問題と感じています。あと、今は小中学校だけなのですが、これに高校も入れて高校生の発想で企業の課題等に応えていくというのも、また新たな広がりが出て、それで中学生と高校生と一緒に何かやれたらもっと良いかなと考えているところです。以上です。

○佐藤洋樹市長：

ありがとうございました。これまで、鈴木さんには頑張ってきていただいているわけでありますので、これからあまり鈴木さんばかり頼りにせず、それを受けて今後地域の課題等も検討しながら体制をどういう風に確立していくか、持続可能なコンソーシアムに作っていくかということが大きな課題になってくると思いますので、その辺りもあわせて事務局の方でも検討をいただければと思います。子どもたちがこういう機会を経て、肝心の寒河江について改めて理解をする、郷土愛を育む一助に相当なっていると思います。

今、企業の方も雇用情勢が大変厳しいわけで、子どものうちからやはり自分の会社を知ってもらいたいという意識が相当強くなっているように思えます。そういったことを踏まえながら、先程國井委員からもお話ありましたが、子どもたちが大人になったときに改めて寒河江の良さや寒河江を見つめなおす、あるいは寒河江に帰ってみようかという気になるようなところが少しでも頭の中に残っていくような活動が展開できれば、よろしいのではないかと思ったところがあります。

そうしたところでまとめさせていただきましたが、時間にもなりましたので、以上で今日の二つのテーマに対する意見交換の話し合いは、終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。

4 その他

5 閉 会 午前12時00分